

# 広報戦略WG活動報告書

令和5年3月 広報戦略ワーキンググループ

# 目次

1. これまでの研究会の活動について
2. 広報戦略ワーキンググループの概要
3. 広報戦略ワーキンググループの活動報告
  - ① 女性や若年層に防災情報の取得を促す広報の検討
  - ② 府民が手軽に活用することができる広報グッズの検討
4. 研究会イベントの開催について

# 1.これまでの研究会の活動について

# 1.これまでの研究会の活動①

## ■ 大阪府消防団充実強化研究会とは

大阪府消防団充実強化研究会（以下「研究会」という。）とは、大阪府内の消防団の充実強化を図ることを目的に令和4年に設置された組織。

研究会では、消防団を取り巻く各種課題に対する解決策の検討や、団員が先進事例を積極的に発表することでやりがいを感じる活躍の場の提供などを行う。

## ■ 研究会とワーキンググループ

研究会の下にワーキンググループ（以下「WG」という。）を置くことができ、消防団の充実強化に必要なデータの収集や分析等を行う。



# 1.これまでの研究会の活動②

## ■ 令和4年度第1回研究会（R4年4月22日）

（令和4年度の研究テーマの決定）

- 研究テーマを消防団の認知度向上のための「広報」に決定

（研究テーマが「広報」となるに至った議論）

- 消防団員が減少する中、今後団員を確保していくためには、女性や若者をはじめ、幅広い人材の確保が必要
- 幅広い人材の確保には消防団への理解が不可欠だが、そもそも女性や若者は消防団を知らないのではないか
- 消防団を知らない人たちに、まずは消防団を知ってもらい、加入促進につなげていく必要がある

（今後の進め方について）

- 調査研究WGを設置し、大阪府民の消防団に対する認知度や、消防団への入団意向についての調査を行う
- WGからの報告を受け、広報ターゲット等の検討を行う

# 1.これまでの研究会の活動③

## ■ 調査研究WGの活動（R4年4月～9月）

（「ワーキンググループ活動報告 令和4年9月29日調査研究WG」参照）

## ■ 令和4年度第2回研究会（R4年9月29日）

（広報ターゲット等の検討）

- － 調査研究WGからの活動報告及び提案を受け、今後、下記の広報手法等について検討していくこととした。
  - ① 女性及び若年層に対して防災情報の取得を促す広報手法
  - ② 府民が手軽に活用できる広報グッズ

（今後の進め方について）

- － 広報戦略WGを設置し、広報手法等について検討を行う
- － 並行して、令和5年2月に広報をテーマにイベントを開催する

## 2.広報戦略WGの概要

## 2.広報戦略WGの概要①

### ■ 広報戦略WGの活動内容

- ① 女性及び若年層に対して防災情報の取得を促す広報手法の検討
- ② 府民が手軽に活用できる広報グッズの検討
- ③ 消防団充実強化研究会のイベントの企画・運営 など

### ■ 組織（敬称略）

WG長 寺浦（消防保安課）

WG員 野上（大東市消防団）

松田（豊中市消防団）

目久保（大阪府消防協会）

藤川、岡山、井手、岸之上（消防保安課）



## 2. 広報戦略WGの概要②

### ■ 活動実績

- 第1回～第3回（対面、web、書面）  
広報手法について意見交換を実施、制作する広報ツールを決定  
中間報告書を取りまとめて研究会委員に報告（R5.1.6）
- 第4回～第6回（web、書面）  
制作する広報ツールの具体的内容の検討（デザイン等）  
制作業者の選定、契約、制作開始  
制作中の広報ツールについて内容の協議
- 第7回（書面）  
広報戦略WG活動報告書とりまとめ
- その他：充実強化研究会イベントの開催

### 3.広報戦略WGの活動報告

①女性や若年層に  
防災情報の取得を促す広報

### 3-①女性や若年層に防災情報の取得を促す広報

- 女性や若年層に防災情報の取得を促す広報について、広報戦略の検討を行った。
  - 女性や若者が普段利用しているSNSを活用した広報を行う。
  - 看護師と消防団の活動は親和性が高いため、看護系の専門学校や大学等で広報活動を行う。
  - 防災意識が高い人の方が入団意向が高いというデータがあるため、救命講習や防災イベントで広報活動を行う。
  - 府が制作中のVR動画はこれまでにないもので、消防団員でなくても興味を引くと思う。一般府民がVR動画を視聴することで救命処置や消火活動などの防災情報を取得することができる。

#### 【広報戦略】

**女性や若者**に対して、SNS及び専門学校や防災イベント等の機会を活用してVR動画のPRを行うことで、防災情報の取得を促していく。

### 3-①女性や若年層に防災情報の取得を促す広報

- 広報戦略を踏まえ、具体的な広報手法の検討を行った。
  - SNSの中でも、女性や若者に人気があり、気軽に視聴できる **ショート動画を活用**する
  - 概要欄などに**リンクを貼る事でVR動画に誘導**することが可能
  - ショート動画は講習会や防災イベント等で紹介することもできるなど、活用の幅が広い
  - 専門学校や大学、各種防災イベント等、ボランティアや防災意識の高い人が集まる場所では、**リーフレットの配布が有効**
  - QRコードを表示することでVR動画に誘導することが可能
  - デザインを工夫することで女性や若者の目につきやすくなる
  - チラシであれば公共施設等、幅広い施設に配架することも可能

#### 【広報手法】

**ショート動画及びリーフレット**を制作してVR動画のPRを行う。

### 3-①女性や若年層に防災情報の取得を促す広報

成果物

#### ■ 成果物

– ショート動画

(ショート動画)



– リーフレット

(リーフレット)



#### ■ 今後の活用方法

- 令和5年度中にVR動画と共に市町村に提供  
※市町村への提供時期は未定  
※リーフレットは電子データで提供を想定
- 府ホームページやSNSへアップ
- 府主催の防災関係イベント等で配布、上映

### 3.広報戦略WGの活動報告

②府民が手軽に活用できる  
広報グッズ

### 3-②府民が手軽に活用できる広報グッズ

- 府民が手軽に活用できる広報グッズについて、広報戦略の検討を行った。
  - 女性や若年層をターゲットにしていたショート動画やリーフレットと違い、府民全体をターゲットにする
  - 年齢や性別に関わらず、誰もが使うものにする
  - 受け取ってもらいやすいよう、もらって嬉しいものにしたい
  - すぐに捨てられることのないよう、かさばらないものにしたい
  - 消防団に好感を持ってもらえるよう、自由にデザインができるものにしたい

#### 【広報戦略】

誰もが親しみを感じて使えるような広報グッズを制作することで、「大阪の消防団」を多くの府民に認知してもらおう。

### 3-②府民が手軽に活用できる広報グッズ

- 広報戦略を踏まえ、具体的な広報手法の検討を行った。
  - 広報グッズの中でも、**絆創膏は誰もが使用**するものであり、また**小さくかさばらない**など、受け取ってもらえる可能性が高い。
  - 取り扱う店舗が多く、他のグッズと比較して**単価が安い**ため、**多くの府民に配布**することができる。
  - 形状がシンプルなため**デザインの自由度が高い**
  - **QRコードを表示**して府の消防団のページに誘導することが可能

【広報手法】

**オリジナル絆創膏**を府民に配布することで認知度向上をめざす



### 3-②府民が手軽に活用できる広報グッズ

■ 成果物

なお、デザインは広報戦略WGのメンバーの豊中市消防団の松田団員が考案した。



■ 今後の活用方法

- **4月末以降**に各支部経由で市町村に提供し活用を促す
- 府主催の防災関係イベント等において配布する  
(各支部への配布枚数 **(案)**)

三島	豊能	泉北	泉南	南河内	中河内	北河内
1,200枚	700枚	400枚	400枚	600枚	800枚	1,200枚

# 3広報戦略WGの活動報告

## 〔 ③今後のWGに向けた意見 〕

### 3-③今後のWGに向けた意見

- 今後のWGの活動について、以下の意見が出された。
  - 今年度は広報ツールやグッズを制作したので、**来年度はこれらを用いて女性や若者に向けた広報活動を展開**してみてもどうか。
  - 広報活動に際して、女性や若者は大阪市や堺市など都市部に多いと思われるが、大阪市と堺市には消防団がないため、このミスマッチをどうするべきか検討が必要。
  - 大学生は就職活動に有利となることからボランティアサークルに入る人もいるため、そこで広報をすると有効ではないか。
  - 体験入団制度を導入して、参加特典として広報グッズを配布。体験入団では**女性や若手団員が実演や説明等を行う**のはどうか。
  - 認知度を向上させ入団しても、団の雰囲気や団員の士気が下がると退団してしまう。継続的に団員を確保していくためには、**消防団の内部を強化**する必要がある。
  - **女性団員の活躍に関連して、他府県や他団体等の話を聞きたい。**

女性・若者への広報に加え、女性団員・若手団員の活躍の場を提供

## 4.研究会イベントの開催について

# 4.研究会イベントの開催

- 広報について情報共有することを目的にイベントを開催した。
  - 日時 令和5年2月19日（日）14時00分から16時00分
  - 参加者 約100名（web参加者含む）
  - テーマ 広報、最初の一步  
～消防団の認知度向上、理解促進のために私たちが  
まず取り組むべきこと～
  - 基調講演  
「広報力アップのポイント」（左近充ひとみ氏）
  - 事例発表  
「広報紙「火の見櫓」による広報活動について」（八尾市消防団）  
「広報活動について」（枚方市消防団）  
「広報力を鍛える」（堺市消防局）
  - ブース展示  
府内市町村や消防協会、大阪府から広報に関連した展示を実施

# 4.研究会イベントの様子



## 4. イベント参加者の声

- アンケートに回答した**58名全員**が、イベント全体を通しての感想として「非常に良かった」又は「良かった」と回答。
- 広報の必要性や重要性を再認識したという意見や、市町村の取組事例を知ることができてよかったとの意見が挙げられた。
- 女性や若手の入団促進に有効と思われる取組については、SNSなどを活用した広報という意見が最も多かった。
- 更に今後の活動の参考として、以下の意見が挙げられた。
  - 中長期的な取組みを考え、幼年、少年、中学教育に注力すべき
  - 今後、女性団員の確保と活躍は重要課題だと思う
  - 新成人18歳をターゲットにした入団広報
  - 小中高生たちが団活動や防災訓練を経験し関心をもってもらう
  - 他の防災関連機関との連携を強化する機会を増やす
  - 学生や若手団員の意見発信をしてほしい
  - 機能別消防団の事例発表をしてほしい
  - 他府県の入団促進や民間の採用活動について教えてほしい

次代を担う幅広い人材の確保に向けた取り組みが重要